

[課題図書及び活動] ※3期生・4期生合同実施

担当教員	服部 篤子	所属	政策学部政策学科
テーマ	都市の持続性を考えるー自然、災害、アートを手掛かりに		
活動期間	<p>2022年3月～7月</p> <p>3月 事前学習：課題図書の通読。フィールドリサーチ先である福島県南相馬市等関連のHP、関連資料の通読。</p> <p>3月2日（水）10：00 フィールドリサーチ事前ガイダンス（ZOOM）。</p> <p>3月10日（木）17：30-18：30 後藤琢也先生「原子力発電に関するレクチャー」</p> <p>4月4日（月）～6日（水） 2泊3日学外フィールドリサーチ（福島県南相馬市）（※）</p> <p>4月16日（土）3～4講時（今出川）第1回学習／「論点整理・課題整理」フィールドの振り返りと本セッションの目標。</p> <p>5月7日（土）3～4講時（京田辺）第2回学習／「問いを立てる」第1課題図書の要約を用いて討論。</p> <p>5月28日（土）3～4講時（今出川）／第3回学習「問いを見直す」第2課題図書の要約を用いた討論。セミナーの企画。</p> <p>6月18日（土）3～4講時（会場未定）／第4回学習／中間レポートの発表。セミナーの開催準備。</p> <p>7月9日（土）2～4講時（今出川） 塾生企画セミナーの開催。2講時は準備時間。</p> <p>7月30日（土）（京田辺）第5回学習／振り返り、成果レポートの個人発表。</p>		
活動のねらい	<p>□活動のねらい</p> <p>都市の豊かさとは何でしょうか、都市の未来をどのように描くことができるでしょうか。我々が暮らす都市生活は、経済の発展、成長、安定を目指すことを前提に成り立ってきたといえるかもしれません。他方、近年は、各界でSDGsの取組みが盛んとなってきたとおり、持続可能な社会への議論と模索が続いています。経済の成長と環境の持続性は両立するのでしょうか。</p> <p>本セッションでは、都市の本質を提起し続けたジェイコブズの書籍から「経済の本質」を第一課題図書に学びます。著者は、「人間的な魅力と文化的多様性を兼ね備えた都市とはどのような特徴を持つのか」に着目してきました。本書では「人間はあらゆる面で自然秩序の一部であるとして人間と自然の統一性」を提示しています。大震災、パンデミックを経験した我々は自然と人間との関係を再考するようになったかもしれません。</p> <p>子どもから高齢者まで今を生きる私たちが過去世代から何を学び、未来世代に向けてどのような新しい価値を共に創り、つないでいくのか？」を考え社会を創ることを多世代共創と呼んでいます。大災害から何を学びこれからの都市、そして未来に生かすことができるのかを考えます。</p>		

	<p>まず、新しい街の形成を始めた福島南相馬市でフィールドリサーチを行うことを予定しています。</p> <p>そこでは何を優先して地域社会を形成しているのかを体感し課題を抽出します。さらに、「都市の持続性を考える」テーマのとおり、ありたい社会を現地の若者とともを考えるワークショップを行います。</p> <p>本セッションは、読書を通じて学び、実際の現場で体感することで自らの意見をもつこと、そして、幅広い観点から知見を得て議論する姿勢をもつことを目的とします。</p> <p>また、本セッションを通じて得た知見を確かなものとし社会に還元するために成果発表として、塾生が公開セミナーを企画し実施します。</p> <p><u>※このセッションは、3期生・4期生が合同で活動します。</u>  <u>※このセッションは、宿泊を伴う学外での活動を行います。</u></p> <p><b><u>(※)フィールドリサーチは新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み3期生のみ現地参加とします。4期生はZOOMによる一部オンライン参加もしくはオンデマンド配信とするなど、内容の変更または実施を取りやめる可能性があります。</u></b></p> <p>フィールドリサーチ実施の可否は、3月15日(火)時点の情勢で判断し、京都、福島いずれかにおいてまん延防止等重点措置もしくは緊急事態宣言が適用された場合は6月18日-19日に延期となります。</p> <p>フィールドリサーチは、一般社団法人あすびと福島の全面的協力のもと実施します。</p>
<p>活動の流れ</p>	<p>□流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) セッション開始までに課題図書2冊について通読しておく。</li> <li>(2) フィールドリサーチに関連する資料を収集する。各自調べた情報と自らの問題意識を示したレポートを事前課題とする。</li> <li>(3) 3月10日に後藤先生のレクチャーを受けて福島のおかれている現状を理解し、さらにリサーチを深めること。</li> <li>(4) 3月25日までに事前学習のレポートを提出する。提出先は、事務局が設定したTeamsに各自アップロードする。塾生間で情報を共有することを意図しているため、出発までに他の塾生の資料を通読しておく。</li> <li>(5) フィールドリサーチにおける3期生の現地活動は別紙冊子を見ること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・到着日(4月4日)の夜に各自の問題意識の共有を行ったうえで翌朝からフィールドリサーチを行う。</li> <li>・南相馬市を中心として、福島原発旧避難区域を含む20キロ圏の現状を探查する半日フィールドリサーチを行う。その体感を得てグループワークを行う。「都市の持続性」を検討するための論点整理、要素の抽出を行う。</li> <li>・各日夜(4月4日・5日)に振り返りを行い、翌日のヒアリングの準備を再確認する。</li> <li>・最終日(4月6日)は、南相馬市で活躍する社会起業家にヒアリングを実施する。その後、「ありたい社会」をデザインし、グループ発表を行う。</li> </ul> </li> </ol>

	<p>(6) 第1回学習日は、フィールドリサーチでの学びを振り返るとともに、3期生が4期生に向けて発表し、論点整理、課題整理を行う。</p> <p>(7) 第2回学習日までに課題図書のリジュメを作成する。リジュメとは、各章ごとに注目すべき箇所、疑問を感じた箇所についてページ数とともに抜き書きをしておく。第2回学習日は、その箇所について議論をするため、熟読を必要とする。</p> <p>(8) 学習日当日はグループに分かれ、第一課題図書を参考に論点整理を行う。また、自然や災害の観点から都市のデザインに関する疑問点等について話し合う時間をもつ。フィールドでの調査から明らかになったこと、および書籍から得た内容をもとに、「問い」を見出す。</p> <p>(9) 第3学習日は、第2学習日で見出した問いに対して、アートはどのような役割をもつのかを話し合う。そのための第2課題図書の中から関連する章について概要を作成し議論する。グループにて事前に論点整理をしておく。</p> <p>(10) 第4回学習日は全体を通して学んだことを整理し、中間レポート「都市の成長と環境の持続性（仮）」を作成する。レポート発表を受けて、対外的なセミナーを企画する。</p> <p>(11) 公開セミナーを開催する。 その後、本セッションを通して得た学びについて成果レポートを作成し、第5回学習日の振り返りに個人発表を行う。</p> <p><b>事前学習のレポートや発表レポートは、常に Teams で共有し、事前に他のグループや個人のレポートを通読したうえで出席すること。</b></p> <p>□事前課題 課題図書2冊を読み、概要をまとめておく。 フィールドワークの事前学習として、以下のサイトや関連サイト、論文などを通読しておくこと。 関連情報をまとめて Teams に提出すること。 あすびと福島 HP <a href="http://asubito.or.jp/">http://asubito.or.jp/</a>  南相馬市復興関連サイト <a href="https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/index.html">https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/index.html</a></p> <p>□事後課題 セミナー開催後のレポートを事後課題と位置付け最終回に発表を課す。</p>
課題図書1	経済の本質 自然から学ぶ
図書情報1	ジェイン・ジェイコブズ、日経ビジネス人文庫、2013年
課題図書2	素手のふるまい：アートがさぐる未知の社会性
図書情報2	鷲田清一 2016年 朝日新聞出版